

鹿児島県

いずみ民泊体験推進協議会

豊かな自然と深い歴史の中の田舎暮らし体験



農家での夕食は、鹿児島の田舎料理



みかん収穫は出水の人気体験



農家向けのタブレット研修
高校生も協力

取組概要

- H23年から国内外の教育旅行生を農泊受入。行政・コーディネート機関・農家が連携し受入拡大。R1年の受入数は2千500人。
- H26年から、海外旅行商談会に参加。農泊・ツル・武家屋敷での着物茶道体験をセットでPR。台湾等の団体ツアーを農泊で受入。香港線のLCC就航に伴いFIT向けの申込フォーム立ち上げ。
- 留学生等による観光資源調査。受入農家はタブレット活用で多言語対応。

活動成果

- 滞在型のため、ツル観察センターや武家屋敷の外国人観光客も増加し、地域全体に経済効果が出てきている。
- 受入農家はタブレット・ポCKETークを導入し、翻訳ソフトの活用により言葉の不安は和らいでいる。
- R1年のインバウンド農泊は484人。農泊を希望するFITが増加し、香港、台湾、中国、マレーシア、シンガポール、フランス、アメリカと受入国は拡大。

出水市シティセールス課観光交流係
鹿児島県出水市緑町1-3

<https://nohaku.net/council/council-955/>
Tel :0996-63-4061 Fax :0996-63-1331

いぶすきの農漁村力協働推進協議会

農魚山村資源の再発掘と「田舎力」の強化



収穫体験ツアー参加者に天然カマドで蒸したソラマメを提供



新種グリーンピース収穫体験ツアー



さつまいもペーストを
使ったアイスクャンデー

取組概要

- 農漁山村資源の再発掘による地域経済の向上と地域間のネットワーク強化による集落維持の仕組みづくりを行うため当協議会をH27年に設立。
- 指宿市が発祥の地である「さつまいも」を利用し、さつまいもペーストを使ったアイスクャンデー等を商品化。
- 農家版体験プログラム「キラ☆旅」の実施や鰻温泉のスメ蒸気を使った地元季節野菜とイモ料理提供など地域資源を核とした交流イベントを開催。

活動成果

- 「さつまいもアイスクャンデー」や当協議会主催のレシピコンテストで受賞した「2色ダンゴ」その他の商品開発を行うことで、これらの地元事業所での製造に結びついた。
- 体験プログラム「キラ☆旅」の実施により、1次産業従事者による3次産業への意識変革と地域全体への経済効果に繋がった。R1年度は、このイベントから発展した「極上体験プログラム」へ移行し、多言語版の制作に着手できた。

いぶすきの農漁村力協働推進協議会

鹿児島県指宿市湊2-5-33

Tel: 0993-22-3252

Fax: 0993-22-3884

一般社団法人ヤクタネゴヨウ保全の会

希少種ヤクタネゴヨウと松を保全しその伝統と文化を広げる



伊関小学校太田へゴ自生野外授業



太田里山体験ツアー

取組概要

- 松の島・種子島の希少種「ヤクタネゴヨウ」と松を保全し、その伝統と文化を広げるために、H4に設立（H28年法人化）し、調査・採種・保全活動を続けている。
- 市内の小中学校で野外体験学習として、ヤクタネゴヨウの学習を実施。また、採種育苗した苗を小中学校や公園に移植している。
- 森を守り森と共に生きる村作りとグリーンツーリズムの連携を進めている。インバウンドのために在島外国人とモデルツアーを実施。

活動成果

- H27～30まで、毎年約10個の採種・育苗を行ってきた。また、H29年には松50本、H30にヤクタネゴヨウ20本、R1には地杉苗120本を移植している。
- 松枯れ病対策として、毎年樹幹注入を行い、また、枯松伐倒除去は毎年300本以上行っている。
- 里山保全活動として、へゴ自生群落や多品種杉の間伐除伐、遊歩道整備による自然体験型ツーリズムと村人の参加による希少種調査や薬草作り等々多様な活動を推進。

一般社団法人ヤクタネゴヨウ保全の会

鹿児島県西之表市西之表9689番地 Tel : 090-1437-6700 Fax : 0997-28-0240

おき はまだ
種子島沖ヶ浜田黒糖生産協同組合

種子島の登窯伝統製法の黒糖を世界に紹介



搾汁液を登窯舟形鉄平鍋で煮詰めていく



鉄ローラで圧搾

取組概要

- H30年、100年以上続けられてきた伝統製法による黒糖製造が廃業に危機を迎えたのをきっかけとし、協同組合を法人化して設立。現在5件の地元農家と、3名の移住者で構成。
- 継承発展を目指して、新規就農者を一旦組合で雇用し、生活安定の上で自立農家として育成していく。
- 味のレベル向上と品質管理を徹底するために研修を実施。沖縄農業試験所や国の農研機構に学び、HACCP取得を目指している。

活動成果

- 移住者の若者を新規雇用し、黒糖用の栽培技術と伝統の登窯三段舟形鉄平鍋による技術を継承発展させるため、この3年間で正規雇用を1名、臨時雇用を4名採用した。
- 販売では日本橋三越本店、鹿児島山形屋、東京都庁種子島フェア等に出店し、店頭販売を実施。初年度より3倍の売上げとなった。
- 有機栽培で安定生産となるように取組み、組合員の4反歩を有機圃場としての認証を目指している。

種子島沖ヶ浜田黒糖生産協同組合
鹿児島県西之表市伊関1115番地

<https://okigahamada.com/>
Tel・Fax : 0997-28-0240

はなだ

花田地区水土里クラブ

みんなで守ろう花田地区



伝統行事「餅ひっぱれ」の様子



景観形成活動の様子

みんなで守ろう花田地区

鹿児島県日置市花田地区水土里クラブ
〒898-296-0001
TEL 099-273-8873



「花田みどり券」

取組概要

- H24に花田地区水土里クラブを設立したことをきっかけに地域通貨券を発行。非農家を巻き込んだ取り組みを行うことで問題解決を図った。
- 農地の一部を借り受け「花田農園」を開設。小学校と連携し、作物の植え付けや管理、収穫体験を実施している。
- 五穀豊穡を祈り、子供たちがつきたての餅を引っ張りあう伝統行事「餅ひっぱれ」は一時途絶えていたが、組織設立を機に復活させ、農村文化を伝承している。

活動成果

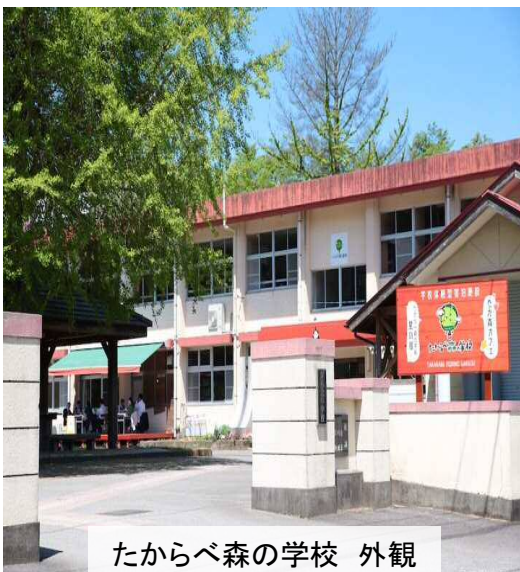
- 活動開始当初の参加人数は990人だったが、地域通貨券の導入で年々参加者が増加し、昨年には約1,800人が参加。参加者の半数以上が非農家で、地域共同活動への参加意識が向上している。
- 参加者に配布される地域通貨券は、花田地区内の商店のみで利用することができ、地域の活性化が図られている。また、閉店を考えていた商店の存続にもつながっている。
- 「花田農園」を通じ、子供たちは作物を育てる工夫や成長過程を学んでいる。

花田地区水土里クラブ

鹿児島県日置市吹上町田尻250番地 Tel : 099-273-8873 Fax : 099-273-8877

たからべ森の学校

「学校はみんなのもの」
-元中学校を利用した民間企業による地域活性化事業-



たからべ森の学校 外観



子どもサバイバルキャンプ

古き良きニッポン体験：
五右衛門風呂

元職員室を改修した たか森カフェ

取組概要

- 平成25年に、旧財部北中学校において再就職を目的とした国の離職者向け公共職業訓練施設「農業人材育成科」を開校。
- 平成27年に、曾於市と一緒に地方創生事業として、「学校恋活」や、「曾於ライフ魅力アップ事業」などを企画・運営。「親子で地域の伝統行事に参加しよう」、「子どもサバイバルキャンプ」など、学校を舞台にアナログ体験を基本としたイベント・ツアーを提供。
- 平成30年に、学校体験型宿泊施設「たからべ森の学校 星の宿」をオープンした。

活動成果

- 平成27年イベント・ツアーの提供、平成28年カフェをオープンして以降、売上げ、来客者数は右肩上がりに伸びている。
- 元中学校を活用した森の学校が、アナログな体験を通して、人と人との触れ合いや感動体験を提供している。
- 令和元年にジビエ商品開発を目的として設立された「合同会社財の森」で加工された商品は、令和2年度より「たか森カフェ」や、曾於市ふるさと納税、郵便局ふるさと小包の商品として、販売が開始されている。

たからべ森の学校 <https://t-morinogakkou.jp/>

鹿児島県曾於市財部町北俣5410-1 Tel : 0986-28-6120 Fax : 0986-28-6121

特定非営利活動法人 風と土の学び舎

地域を耕し、地元の人と若者が協働する町へ



地引網体験プログラム



移住者と地元の人で
一緒に交流拠点づくり

大学での農産物販売の様子

取組概要

- H7年、一人の学生が農業研修先として南大隅町を訪れたことがきっかけとなり地元農家による都市部学生の農村研修受入れを25年取り組んでいる。
- 移住者の一人が中心となって、地域の人と協力して古民家を改修中。今後、この施設を拠点にして、宿泊をはじめ、郷土料理体験や地引網体験等の農村体験プログラムを展開する。
- 地域の魅力を再発見・発信する地域情報誌「かぜつち」を創刊。移住者が編集長となっている。

活動成果

- 学生の受入は、毎年15～25名、だったが、R1年は43名となり、累計592名を受入れ、4名の方が20代で移住した。
- 平成30年度より、長年受入れている学生の大学祭で、受入農家の農産物を販売し、売上げは3日間で50万から120万円に増加している。
- 長年の実績が評価され、南大隅町と東京農業大学が地域包括連携協定を締結。学生と地元農家が双方向に交流し、学びあうことで持続可能な活動となっている。

56 鹿児島県 肝付町

6次産業化

輸出

農福連携

ビジネス部門

むらしょう

村商株式会社

地域の絆と食の架け橋を世界へ



経営者クラブによる経営ノウハウの伝承



ごちそうビーフ新商品開発



福祉施設利用者による軽作業

取組概要

- H19年に飼育頭数16頭の和牛一貫経営を起業。畜舎環境、餌、水など「こだわりの牛づくり」を追求。直営の生肉店・焼肉店を併設し、黒毛和牛をリーズナブルに提供。
- 地域農家と連携し、地域活性化の取組や経営ノウハウの伝承を行うために、積極的な牧場の視察と講和への参加を行っている。
- 農福連携として、地元福祉施設との連携による軽作業のサポートを契約。

活動成果

- 飼養頭数を着実に拡大し、R1年度は1,200頭。売上高は14億3千万円、肝付町などの店舗への来場者数は年間約8万6千人。台湾へも輸出しており、R1年度の実績は約5千3百万円。
- 労働負担軽減と経営効率化のため、ICT機器を導入。効率的で働きやすい職場環境を構築。
- 独自の輸出ルートを確立できたことで輸出コストが削減され、高品質で安価な価格帯を実現。

村商株式会社

鹿児島県肝付郡肝付町622-1

<https://www.shinmurachikusan.com/murasho/>

Tel: 0994-45-5098

Fax: 0994-45-5095

せがわ ちか
瀬川 知香氏

農業・宿泊業・観光業 田舎の暮らしを体感できる暮らし旅行社。



農業体験プログラム:「畑旅」



1日1組限定の古民家宿



特産品開発(スイートコーン茶)

取組概要

- 旅行会社、観光協会勤務を経て4年前に穎娃町へ移住。NPO法人に所属し、農風景を活かし、畑を農家がアテンドする「畑旅(はたたび)」を実施。
- 農家と連携して体験ツアーの開催や農産物を活用した特産品開発に取り組んでいる。
- 空家だった古民家を改装し、1日1組限定の貸切宿(「暮らしの宿 福のや、」)の経営に着手。宿は素泊まりで、食事や観光は町内の他の事業者を案内。

活動成果

- メディアの受付窓口となる行政との密な関係性を構築し、既存施設・新規施設や小規模な取組まで丁寧に発信してもらい、何度も顧客獲得に繋がった。
- 貸切宿の利用により、1泊2日で町内を巡り、様々な住民と交流することで地域への愛着が増し、リピート客が増加。
- 安価に滞在できる拠点ができ、観光客や移住希望者が宿に滞在しながら地元の方と親睦を深めることができるようになり、移住者も出てきた。

瀬川知香氏
鹿児島県南九州市穎娃町郡1554-1<https://www.fukunoya-ei.com/>

Tel : - Fax : -